秋　田　市

強　清　水　遺　跡

―林道建設に伴う緊急発掘調査報告書―

1997. 3 秋田市教育委員会

序

秋田市林業構造改善事業による林道橋田線の建設予定地が強清水遺跡にかかることから、このたび緊急発掘調査を実施いたしました。

調査は遺跡の一部分でありましたが、縄文時代前期の土壙が検出され、集落の一部であることが判明しました。

本報告書はその調査成果をまとめたものであり、文化財保護のため、さらには研究資料として広く活用いただければ幸甚に存じます。

最後に、発掘調査の実施と報告書作成にご指導、ご協力くださいました関係各位の皆様に、深く感謝申しあげます。

平成９年３月

秋田市教育委員会
教育長　石　黒　俊　郎

例　言

1　本報告書は、林道建設に伴う強清水遺跡（秋田市下浜八田字強清水）の緊急発掘調査報告書である。

2　本報告書の執筆は、菅原俊行、石郷岡誠一、西谷　隆の助言を得て安田忠市が行った。

3　遺跡の地形・地質は、「秋田湾大規模工業開発地域　土地分類基本調査　羽後和田　秋田県」を参照した。

4　遺構の平面図及び土層断面図中のＰは土器（片）、Ｓは石（礫）を示した。また、土器実測図で断面を黒塗りしたものは須恵器である。

5　発掘調査による出土遺物、実測図、写真、その他の記録は秋田市教育委員会が保管する。

目　次

序

例言

目次

調査の概要……1

調査に至るまでの経過……1

調査期間と体制……1

調査の方法と経過……1

来跡者……1

遺跡の位置と地形・地質……2

遺跡の概観……2

周辺の遺跡……2

調査の記録……7

基本土層……7

遺構と遺物……7

遺構外出土土器……8

遺構外出土石器……9

まとめ……14

調 査 の 概 要

調査に至るまでの経過

秋田市農林部林務課は、林業構造改善事業による林道楢田線の建設を計画しており、平成９年度の開設を目指している。しかし、路線は周知の遺跡である「強清水遺跡」[註1]を通過することから、秋田市教育委員会と事前協議を行った。そして、平成７年12月６日、秋田市教育委員会に遺跡範囲確認調査が依頼された。

秋田市教育委員会は、調査の依頼を受けて平成７年12月18日から20日まで遺跡範囲確認調査を実施した。調査の結果、遺構及び遺物が確認され、発掘調査面積を確定した。そして、路線の変更や当該遺跡の保護について再び協議した結果、路線の変更は不可能であることと、工事着工時期が迫っていることなどから発掘調査を実施し、遺跡を記録保存することにした。

調査期間と体制

調 査 期 間　平成８年４月５日～４月23日

調 査 面 積　約600㎡

調 査 主 体　秋田市農林部林務課

調査担当者　秋田市教育委員会

調 査 体 制　秋田市教育委員会文化課

課　　長　　菅 原 俊 行

課長補佐　　石郷岡 誠 一

主　　査　　西 谷　　隆（調査担当）

主　　査　　安 田 忠 市（調査担当）

主　　事　　佐々木　　清

調査作業員　鈴木銀一、三浦竹治、鈴木市太郎、三浦金司、鈴木末蔵、長谷部鉄治、三浦初枝、三浦千枝子、三浦タキ子、鈴木ウメノ、高島綾子、鈴木博子、矢野冨美子、鈴木キヨ、鈴木ルミ子

調査の方法と経過

調査区に任意の点１個所を選定し、この基準杭を中心に南北基線とこれに直交する東西基線を作り、そこから４×４ｍのグリッドを設定した。グリッドは東西方向（Ｘ軸）に東から２文字のアルファベット（ＬＤ、ＬＥ、ＬＦ・・・）を、南北方向（Ｙ軸）に南から２桁の数字（33、34、35・・・）を配し、その組み合わせをグリッド名とした。

調査は、４月５日から23日の日程で実施した。４月５日、調査を開始する。重機による表土除去作業（８日まで）。８日、グリッド掘り開始。並行してグリッド設定及び標高の移動を行う。19日、グリッド掘りが終了し、ローム面で確認した土壙の調査を行う。22日、遺構及び調査区全景写真撮影、のち平面実測を行う。23日、機材を撤収して調査を終了する。

来跡者

高橋忠彦、藤澤　昌（秋田県埋蔵文化財センター）、鈴木　勇（八田部落会会長）秋田市立八田小学校教師６名、生徒18名（１～６年生）

遺跡の位置と地形・地質

遺跡の位置

遺跡は秋田市の南西部にあたる秋田市下浜八田字強清水に所在する。秋田市街からは国道７号線を南下し、新屋地区から県道椿川・新屋線を下浜楢田方面へ走り、楢田集落手前のＹ字路を下浜八田方面へ約300ｍ入った西側の標高約25ｍの段丘上に位置する。

北緯39°37′5″、東経140°8′33″で、ＪＲ東日本羽越本線下浜駅より東へ約6.5km、日本海からは約6.7km内陸へ入った地点である。また、遺跡の東側約900ｍには雄物川が流れている。

遺跡の地形・地質

遺跡は国見山丘陵の東端にあたる豊岩段丘に位置する。国見山丘陵は標高100ｍ前後の低い丘陵地である。地質は含油第三系泥岩地域で、和田積成盆に新第三紀層を基底とする中新世（女川層・船川層）、鮮新世（天徳寺層・笹岡層）、洪積世（高岡層・潟西層）、完新世の各層が模式的に堆積している。

豊岩段丘は標高20ｍ、25ｍの２段が認められ、谷密度は20／㎢～30／㎢である。層厚は約50ｍで、礫・砂及び泥からなり、砂層を挟んでいる。土壌は豊岩２統で、洪積世の潟西層（砂、礫、泥）を母材とする砂質の未熟性土壌で、豊岩１統の下部に発達する崩積性土壌である。上層はほぼ粘土で覆われ、下層は礫・砂層が互層となって堆積するが、上層の粘土層は黒色土が淡色黒ボク土となっている。

遺跡の概観

遺跡は雄物川左岸の豊岩段丘東端に立地し、遺跡の範囲は東西300ｍ、南北250ｍと推定される。

調査区は遺跡の東部で、台地の縁辺部にあたる。標高は約25ｍで、現水田面である沖積低地との比高差は約17ｍである。

調査の結果、検出遺構及び出土遺物は少ないものの、縄文時代前期が主体の遺跡と考えられる。

隣接する遺跡は、北側約800ｍに縄文時代、中世の小山館、南側約1.2kmに古代の岩ノ沢遺跡等の遺跡が所在する。

周辺の遺跡（第２図）

秋田市教育委員会が昭和61年から63年に実施した遺跡詳細分布調査[註2]と秋田県教育委員会が昭和53年から55年に実施した秋田県の中世城館遺跡詳細分布調査[註3]に基づいて、周辺の遺跡について概観してみたい。

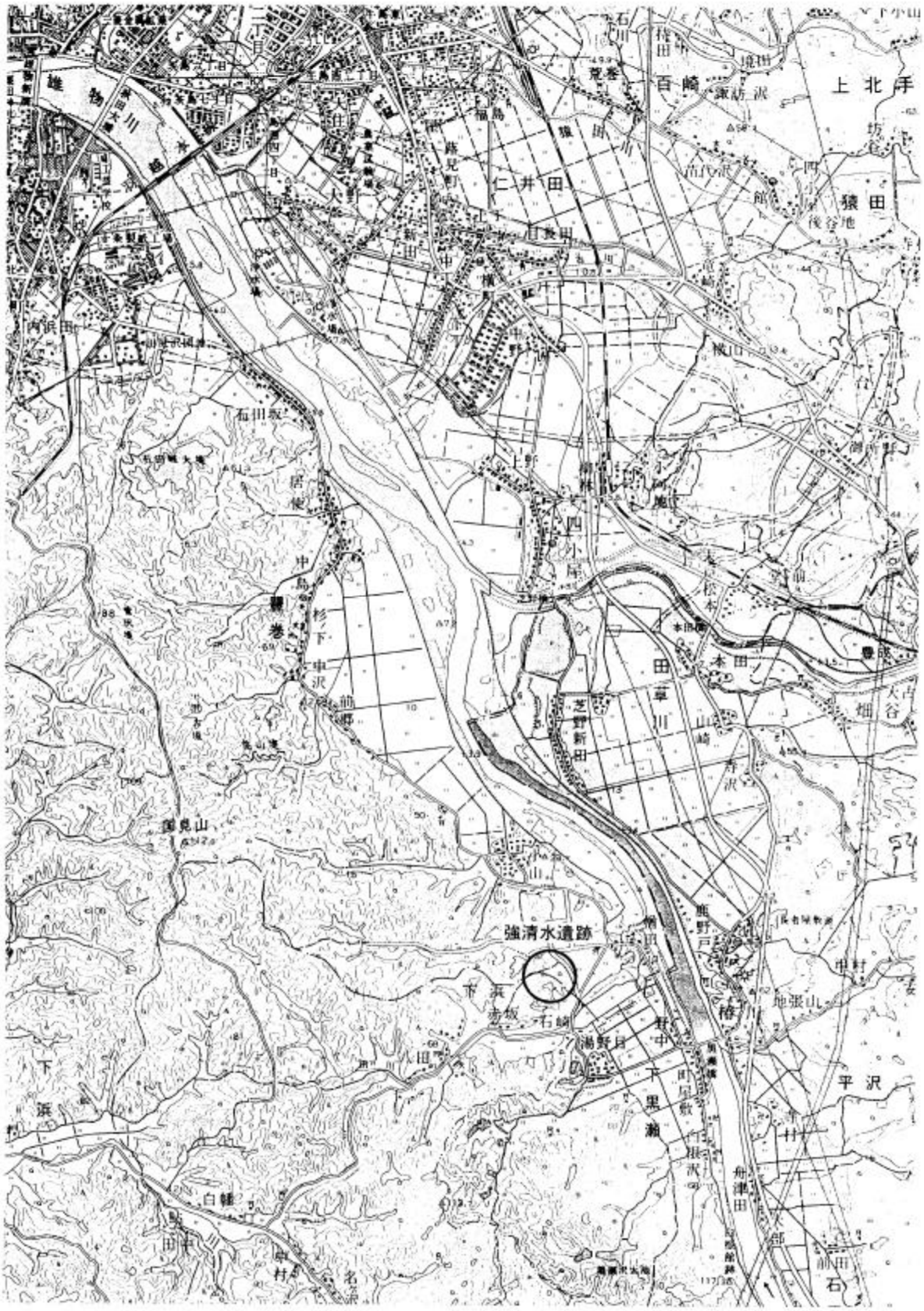
縄文時代

強清水遺跡の北側約500ｍに狐森遺跡（５）、同じく北側約800ｍに小山館（６）、南西側2.3kmには神田遺跡（１）があり、狐森遺跡からは土器・石器、小山館からは石器（石鏃・フレーク）、神田遺跡からは土器片（中期）を採集している。また、雄物川右岸の袖の沢遺跡（７）からは縄文土器・石器（石鏃・石匙・石棒・叩石・石錘）を採集している。

なお、狐森遺跡は豊岩工業団地造成に伴う遺跡範囲確認調査を実施したが、遺物数点の出土であった。

弥生時代

周辺では確認されていないが、秋田市御所野丘陵部遺跡群[註4]や河辺町七曲台遺跡群[註5]では遺構及び遺物が確認されている。



第1図　遺跡の位置

第２図　周辺の遺跡

0　1,000m

古代

強清水遺跡の南側約1.1kmに岩ノ沢遺跡（４）があり、須恵器を採集している。

中世

強清水遺跡の南西側約1.8kmに柳沢館（２）、同じく南西側約1.7kmに山ノ沢館（３）、北側約800mに小山館（６）がある。柳沢館は標高約48mの丘陵突出部に位置し、郭・腰郭・空掘・竪掘が認められ、青磁碗が出土している。山ノ沢館は標高約48mの丘陵突出部に位置し、連郭が認められている。連郭は幅６m、長さ７mの郭と７つの段からなる。

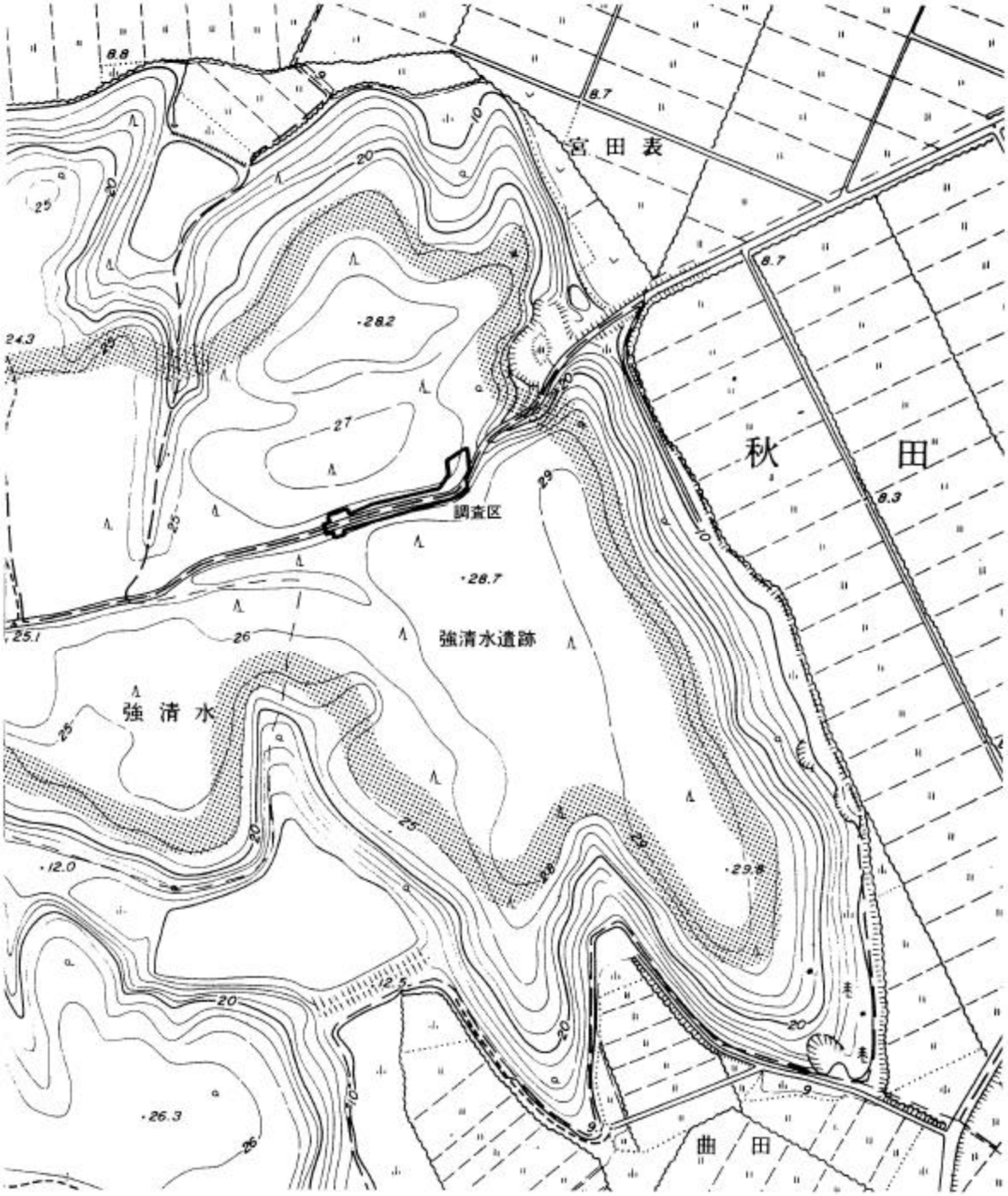
註１　「秋田県秋田市遺跡詳細分布調査報告書」　秋田市教育委員会　1989年３月

註２　註１に同じ

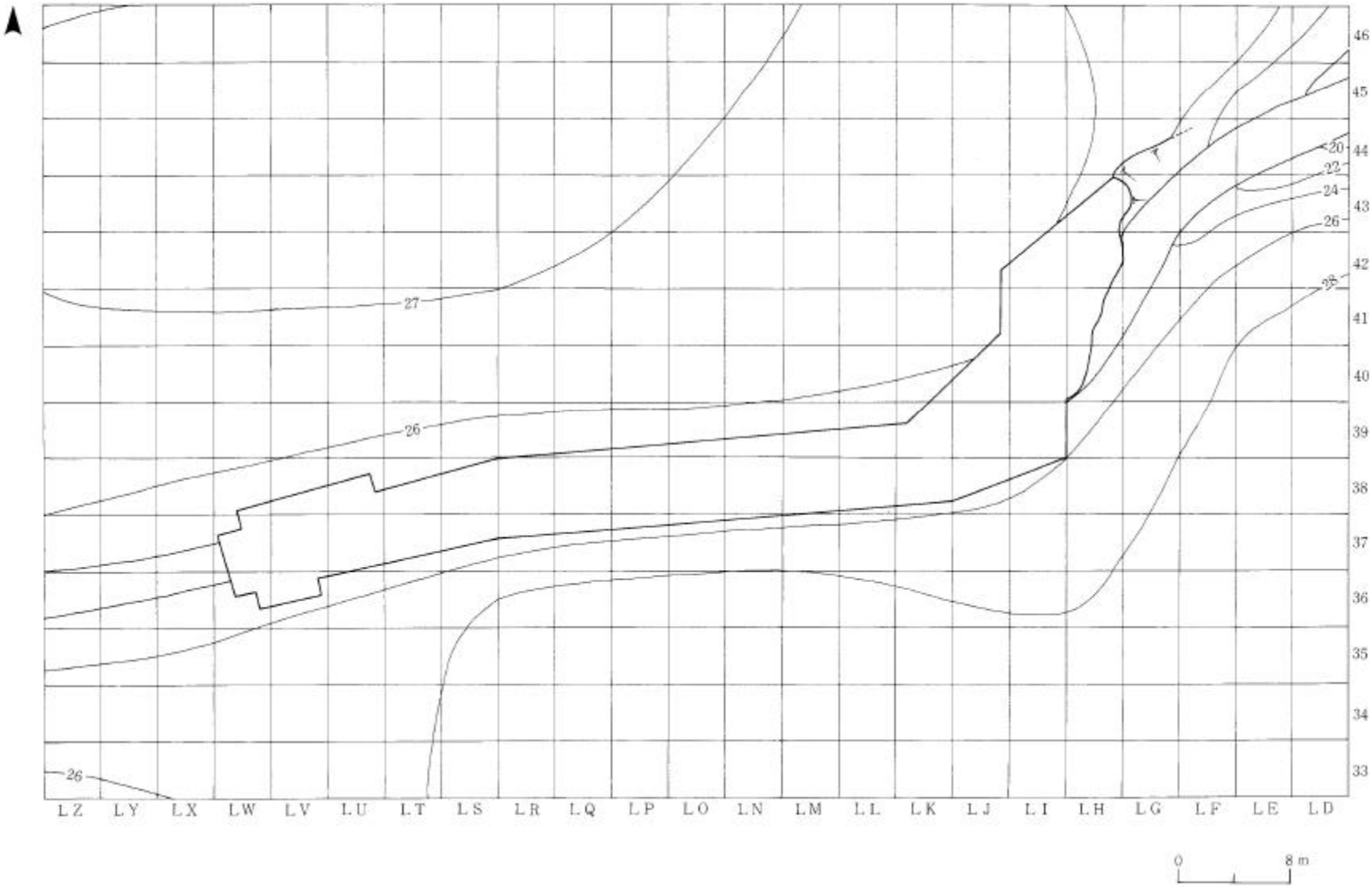
註３　「秋田県の中世城館」　秋田県教育委員会　1981年３月

註４　「秋田臨空港新都市開発関係埋蔵文化財発掘調査報告書」　秋田市教育委員会　1984年３月、1985年３月
「秋田新都市開発関係埋蔵文化財発掘調査報告書」　秋田市教育委員会　1986年３月～1994年３月

註５　「七曲台遺跡群発掘調査報告書」　秋田県教育委員会　1985年３月
「東北横断自動車道秋田線発掘調査報告書Ⅰ」　秋田県教育委員会　1986年11月



第3図　遺跡周辺の地形

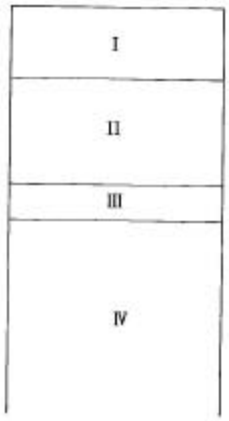

46
45
44
43
42
41
40
39
38
37
36
35
34
33
20
22
24
26
28
27
26
26
LZ LY LX LW LV LU LT LS LR LQ LP LO LN LM LL LK LJ LI LH LG LF LE LD
0
8 m

第4図　グリッド配置図

調 査 の 記 録

基本土層（第５図）

基本土層は、第Ⅰ層 表土、第Ⅱ層 暗褐色土、第Ⅲ層 暗黄褐色土、第Ⅳ層 黄褐色土で、第Ⅰ層が道路（林道）または腐植土、第Ⅱ層が遺物包含層、第Ⅲ層が漸移層、第Ⅳ層がローム層（地山）である。



第５図　基本土層柱状図

遺構と遺物

検出遺構は、土壙４基、柱穴状遺構数個で、全て地山面での確認である。

土壙

１号土壙（第６図）

調査区の西側で検出された。

長軸80cm、短軸60cmの楕円形を呈し、確認面からの深さは23cmである。壁はほぼ垂直に立ち上がり、底面は平坦である。

出土遺物

土器（第７図１）

１は覆土出土である。深鉢形土器の胴部で、不整撚糸文を施すものである。

２号土壙（第６図）

調査区の西側で検出された。

長軸90cm、短軸55cmの楕円形を呈し、確認面からの深さは20cmである。壁は緩く立ち上がり、底面は丸みがある。

３号土壙（第６図）

調査区の西側で検出された。

長軸70cm、短軸60cmの楕円形を呈し、確認面からの深さは30cmである。壁は東側がほぼ垂直、西側が内湾しながらに立ち上がり、底面は平坦である。

出土遺物

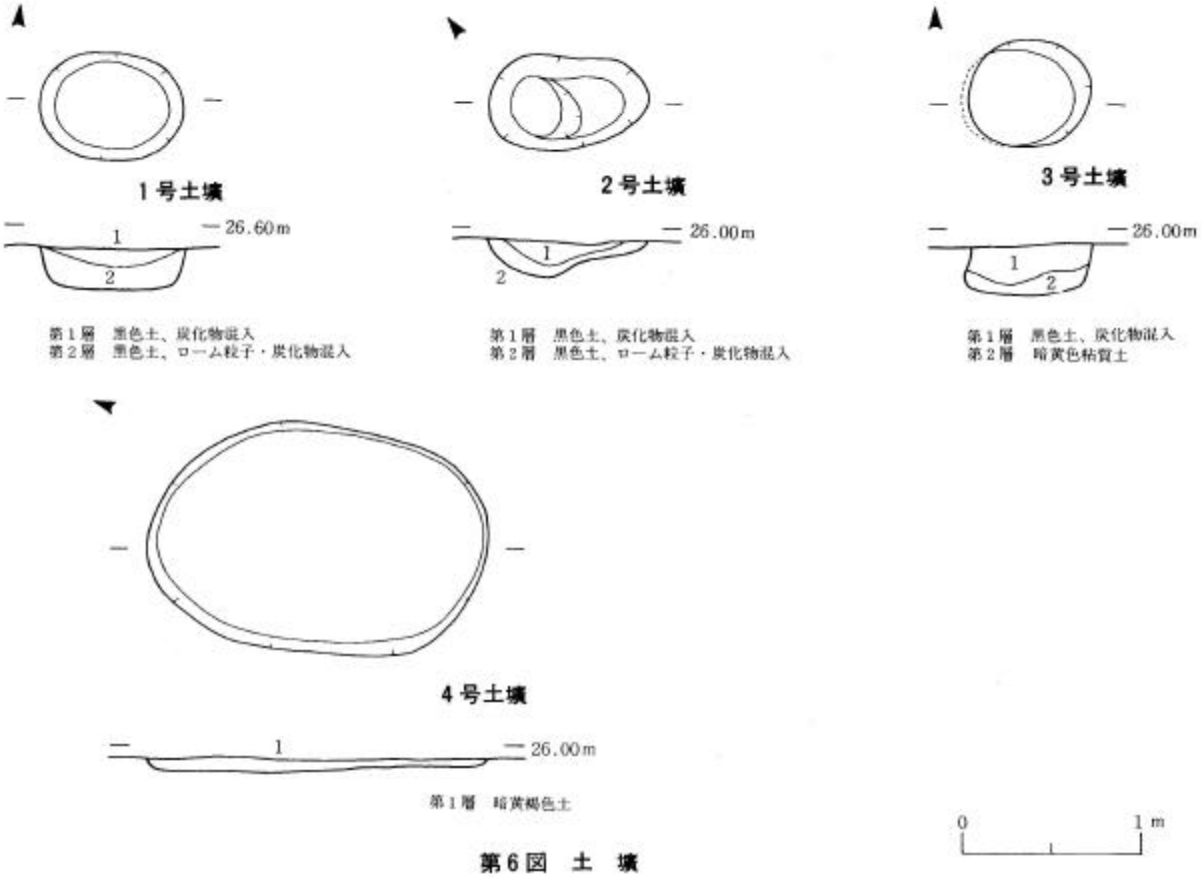
土器（第７図２）

２は覆土出土である。深鉢形土器の胴部で、地文はＲＬ単節斜縄文（横位回転）である。胎土に繊維を含んでいる。

４号土壙（第６図）

調査区の西側で検出された。

長軸190cm、短軸130cmの楕円形を呈し、確認面からの深さは５cmである。壁はほぼ垂直に立ち上がり、底面は平坦である。



第6図　土　壙

柱穴状遺構（第12図）

調査区の東側と西側で検出された。

径20cm前後のほぼ円形を呈し、深さ８～23cmで、15～20cmのものが多い。

遺物の出土はない。

遺構外出土土器

縄文時代と平安時代に大別し、縄文時代の土器は施文様によって細分した。なお、遺物包含層における層位的な区別は認められなかった。

第Ⅰ群土器（第７図３～８）

１類（３～５）

綾絡文を施すものである。綾絡文は横位方向に認められ、全て深鉢形土器の胴部である。

２類（６）

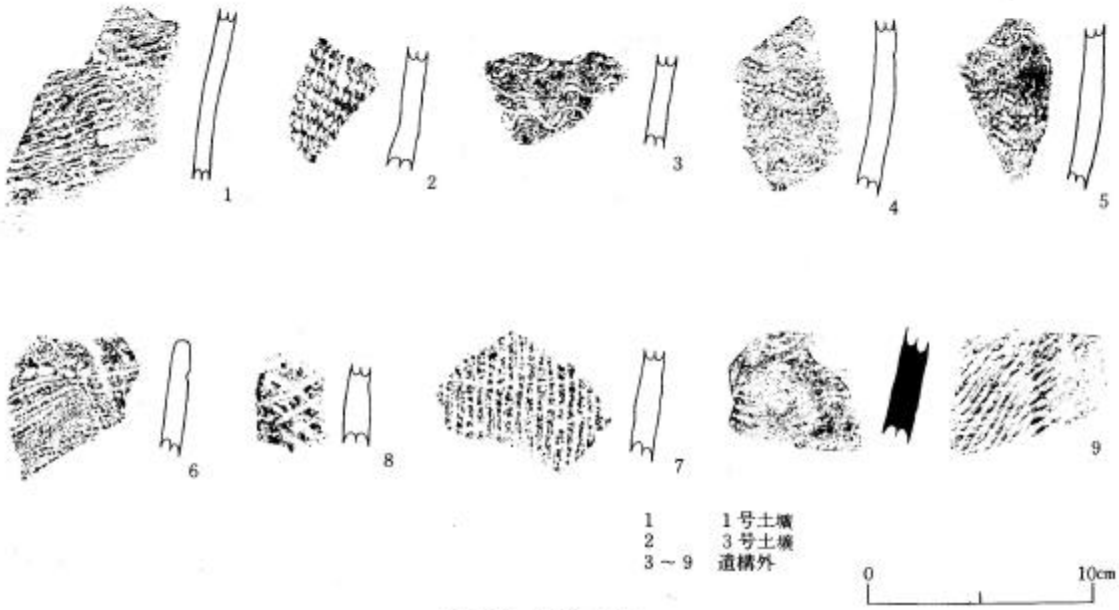
半截竹管状工具内面による半隆起線文によって文様を作り出すものである。口縁部がほぼ垂直に立ち上がる深鉢形土器である。

３類（７）

網目状撚糸文を施すもので、深鉢形土器の胴部である。

４類（８）

撚糸文を施すもので、深鉢形土器の胴部である。



第７図　出土土器

第Ⅱ群土器（第７図９）

須恵器甕である。外面は並行叩板痕、内面は同心円状のアテ板痕が認められる。

遺構外出土石器

石匙（第８図１～５）

５点出土している。全て縦型で、片面調整のものと両面調整のものが認められる。石質は硬質頁岩である。

石槍（第８図６、７）

２点出土している。いずれも木葉形を呈し、両面調整のものである。石質は硬質頁岩である。

ヘラ状石器（第８図８、９）

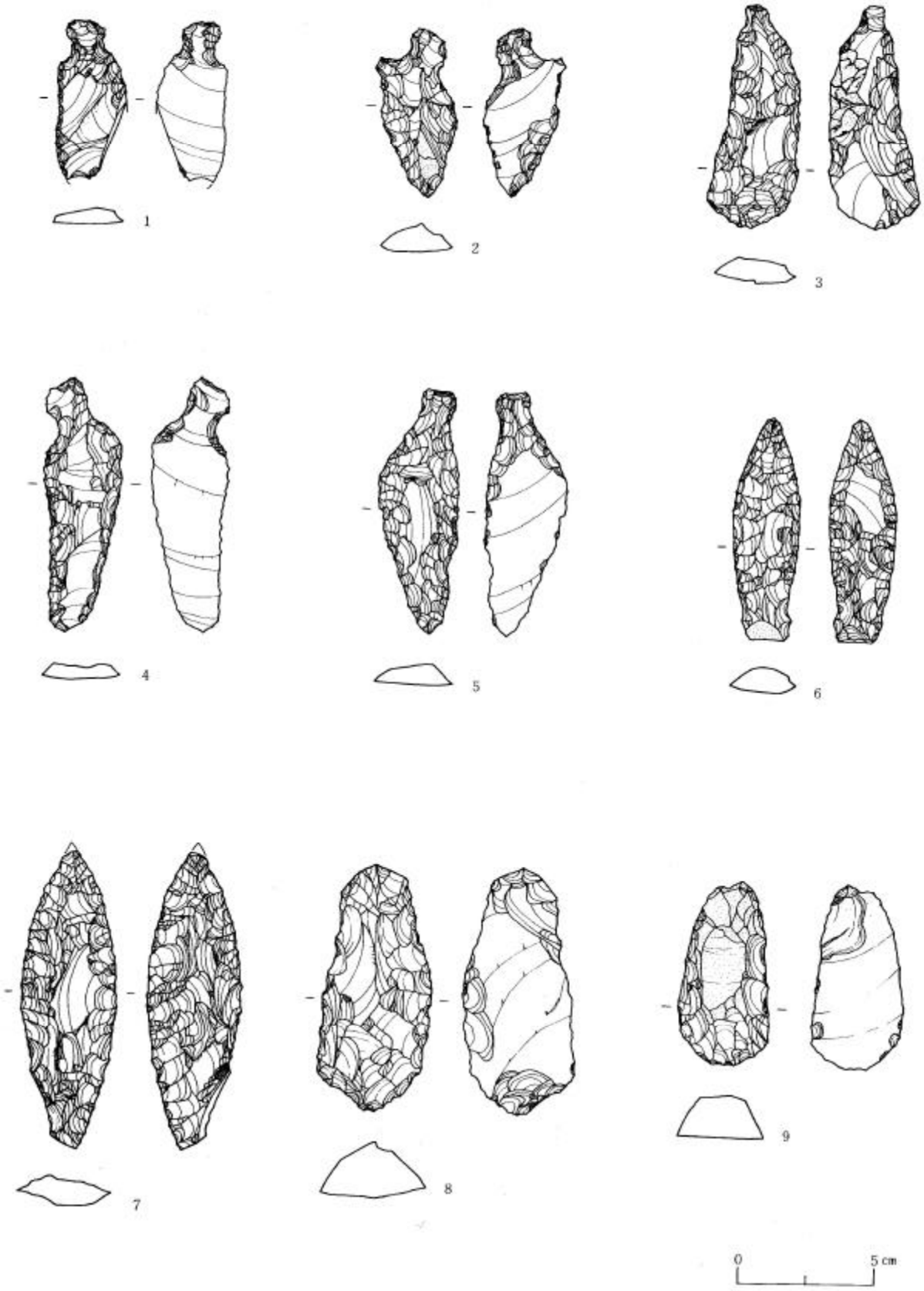
２点出土している。いずれもやや厚手の剝片に二次加工を施すもので、側面から見た刃部は片刃である。石質は硬質頁岩である。

石錘（第９～11図10～38）

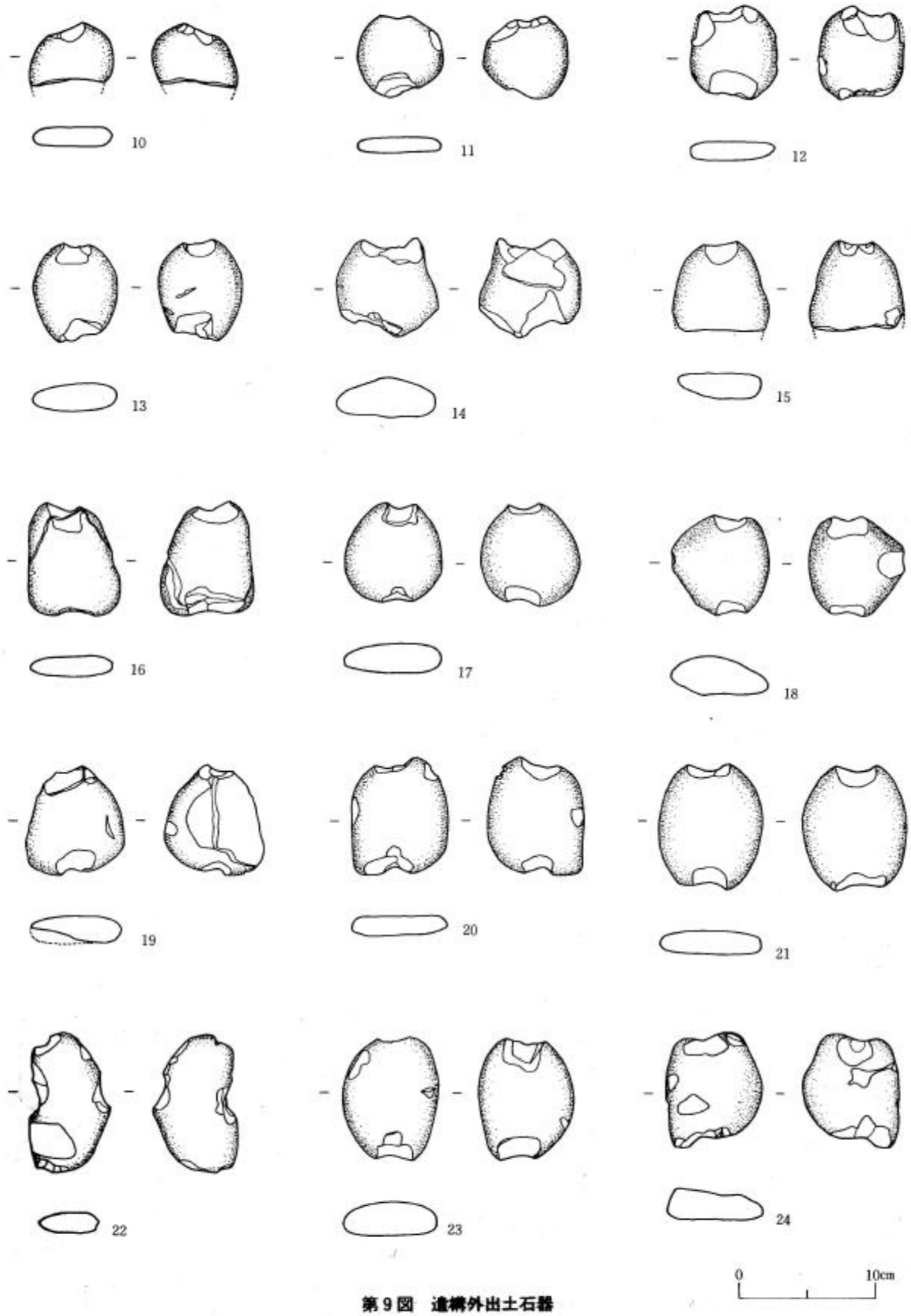
29点出土している。ほぼ扁平な自然礫の両端に抉りを入れるもので、平面形は円形・楕円形・長方形等を呈する。18は抉りを３カ所に、22、35は４カ所に入れている。38は扁平な安山岩を用いている。

半円状扁平打製石器（第11図39）

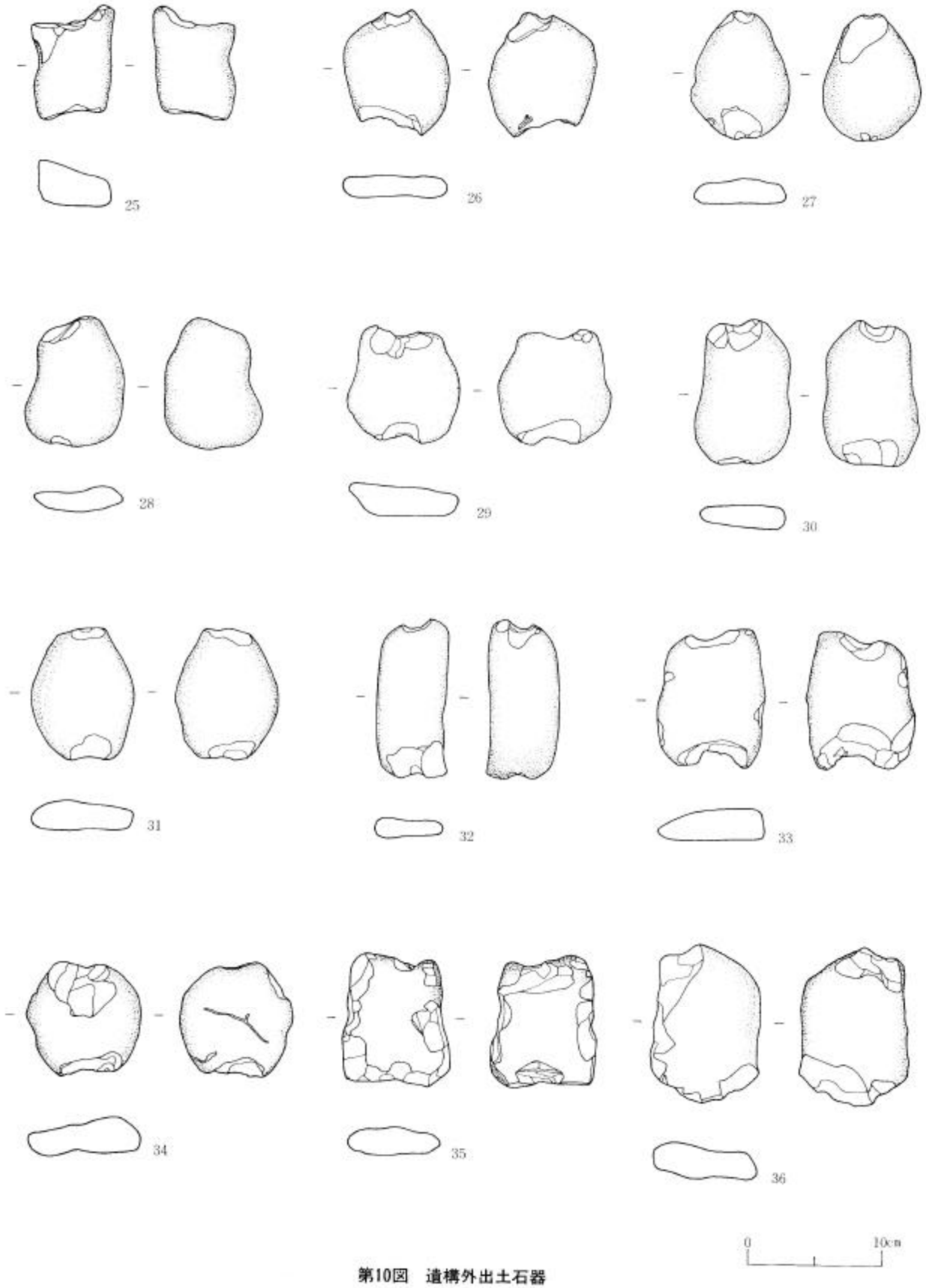
１点出土している。ほぼ扁平な自然礫の一側縁に両面加工を施して刃部を作り出すものであるが、半分を欠いている。



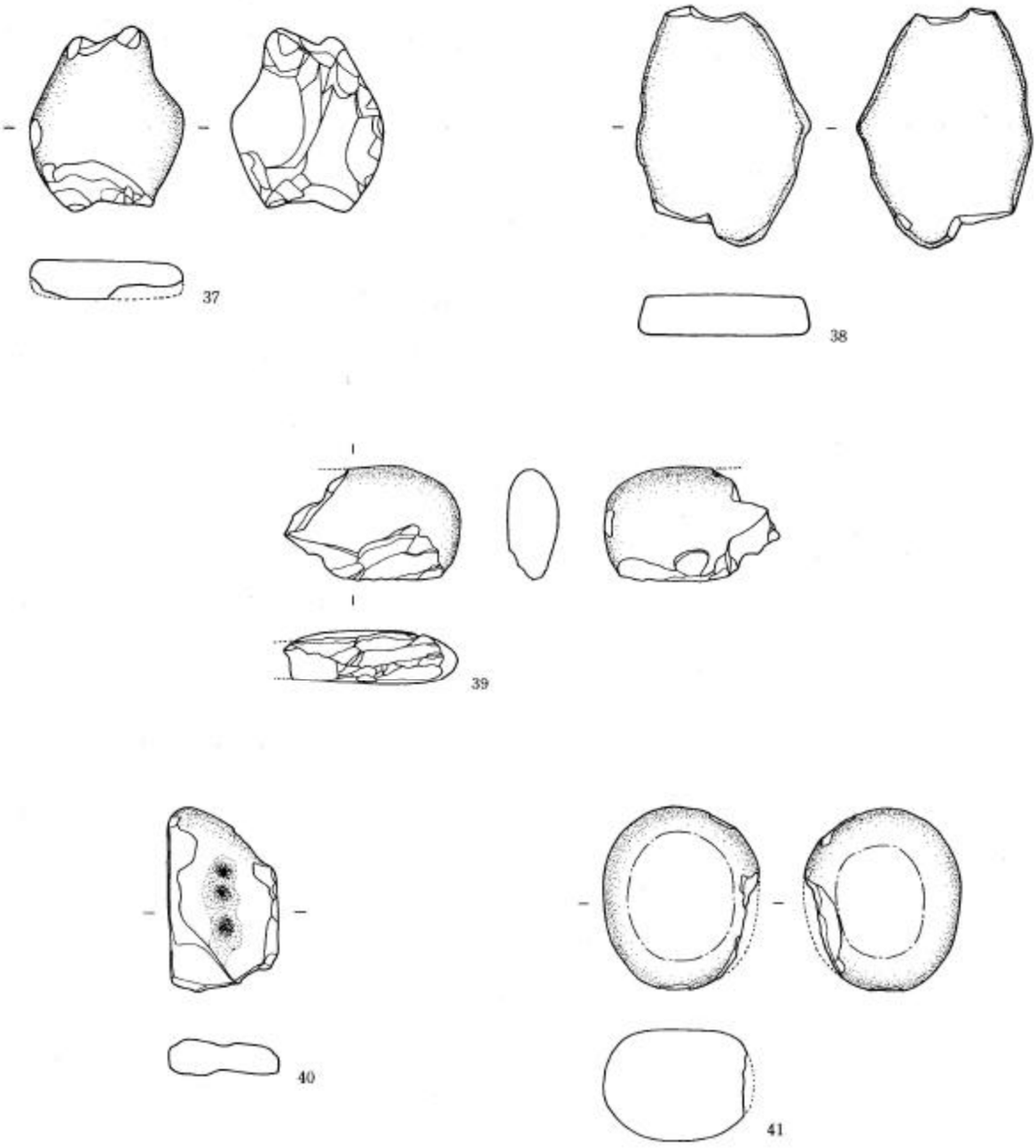
第８図　遺構外出土石器



第９図　遺構外出土石器



第10図　遺構外出土石器



第11図　遺構外出土石器

くぼみ石（第11図40）

1点出土している。板状の礫の片面に3ケ所くぼみが認められるものである。石質は泥岩である。

磨石（第11図41）

1点出土している。丸みのある自然礫の両面が磨れるものである。

まとめ

強清水遺跡は標高25mの段丘に位置し、雄物川の西約900mの地点である。遺跡の範囲は東西300m、南北250mと推定され、今回の調査は林道建設部分の約600㎡である。

調査の結果、遺構は土壙4基、柱穴状遺構数個が検出され、遺物は土器・石器が出土した。土壙は円形・楕円形を呈するもので、1、3号土壙からは第Ⅰ群土器1類と同時期の土器が出土しており、前期中葉に位置づけられると考えられる。遺物は土器・石器で、土器は縄文土器と須恵器である。縄文土器は秋田市御所野丘陵部遺跡群「坂ノ上B遺跡(註1)」、「狸崎B遺跡(註2)」出土土器と類似し、1号土壙出土土器及び第Ⅰ群土器1類は大木2式期、第Ⅰ群土器2類は大木6式期と考えられ、前期中葉から後葉にかけての時期と考えられる。須恵器は甕の破片であり、御所野丘陵部遺跡群で出土しているものと類似しており、平安時代のものである。石器は石匙、ヘラ状石器、半円状扁平打製石器、くぼみ石、磨石であり、それぞれ数点の出土であるが、石錘が29点出土している。石錘は御所野丘陵部遺跡群では「地蔵田A遺跡(註3)」、「坂ノ上B遺跡(註4)」、「坂ノ上F遺跡(註5)」からまとまって出土しているが、他の遺跡からは数個の出土である。本遺跡は遺跡の一部分の調査で29個出土しており、近くに雄物川が流れていることから魚撈等を考える上で注目される。

今回の調査は林道建設部分のみの調査であり、遺跡の全貌を把握するには至らなかった。しかし、出土遺物から縄文時代と平安時代の複合遺跡であると考えられる。そして、縄文時代については竪穴住居跡は確認されなかったが、今回の調査結果や遺跡の立地等から前期中葉から後葉にかけての集落が予想され、秋田市の雄物川左岸の遺跡を考えるうえで成果のあった調査といえる。

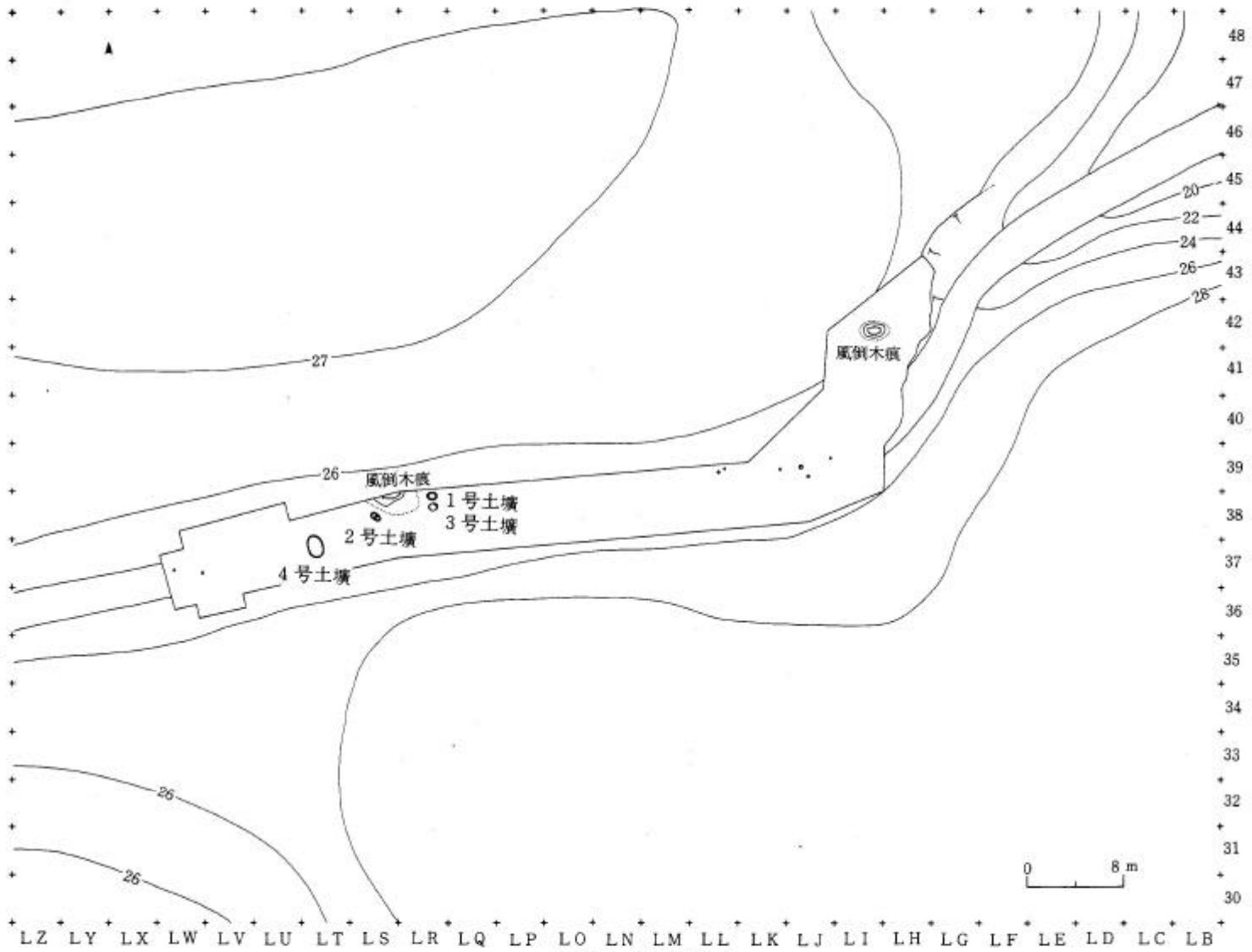
註1　「小阿地下堤遺跡・坂ノ上遺跡発掘調査報告書」　秋田市教育委員会　1976年3月
「小阿地遺跡C地区出土の縄文時代前期前半の遺物について」　武藤康弘　秋田考古学第37号　秋田考古学協会　1981年4月
「秋田市『坂ノ上B遺跡』採集の遺物について」　安田忠市　秋田市史研究第2号　秋田市史編さん室　1993年3月

註2　「秋田新都市開発整備事業関係埋蔵文化財発掘調査報告書　狸崎B遺跡」　秋田市教育委員会　1992年3月

註3　「秋田新都市開発整備事業関係埋蔵文化財発掘調査報告書　地蔵田A遺跡」　秋田市教育委員会　1994年3月

註4　註1に同じ

註5　「秋田臨空港新都市開発関係埋蔵文化財発掘調査報告書　坂ノ上F遺跡」　秋田市教育委員会　1985年3月


風倒木痕
風倒木痕
1号土壙
2号土壙
3号土壙
4号土壙
27
26
26
26
26
20
22
24
26
28
0
8 m
48
47
46
45
44
43
42
41
40
39
38
37
36
35
34
33
32
31
30
LZ LY LX LW LV LU LT LS LR LQ LP LO LN LM LL LK LJ LI LH LG LF LE LD LC LB

第12図　遺構配置図

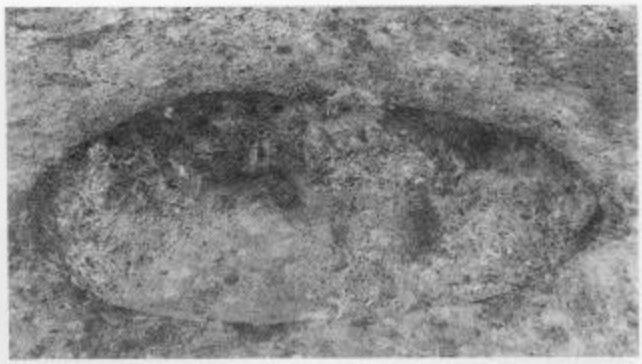
遺跡遠景（南東→）

調査前（東→）

図版 1

調査区全景（東→）

1号土壙（南→）

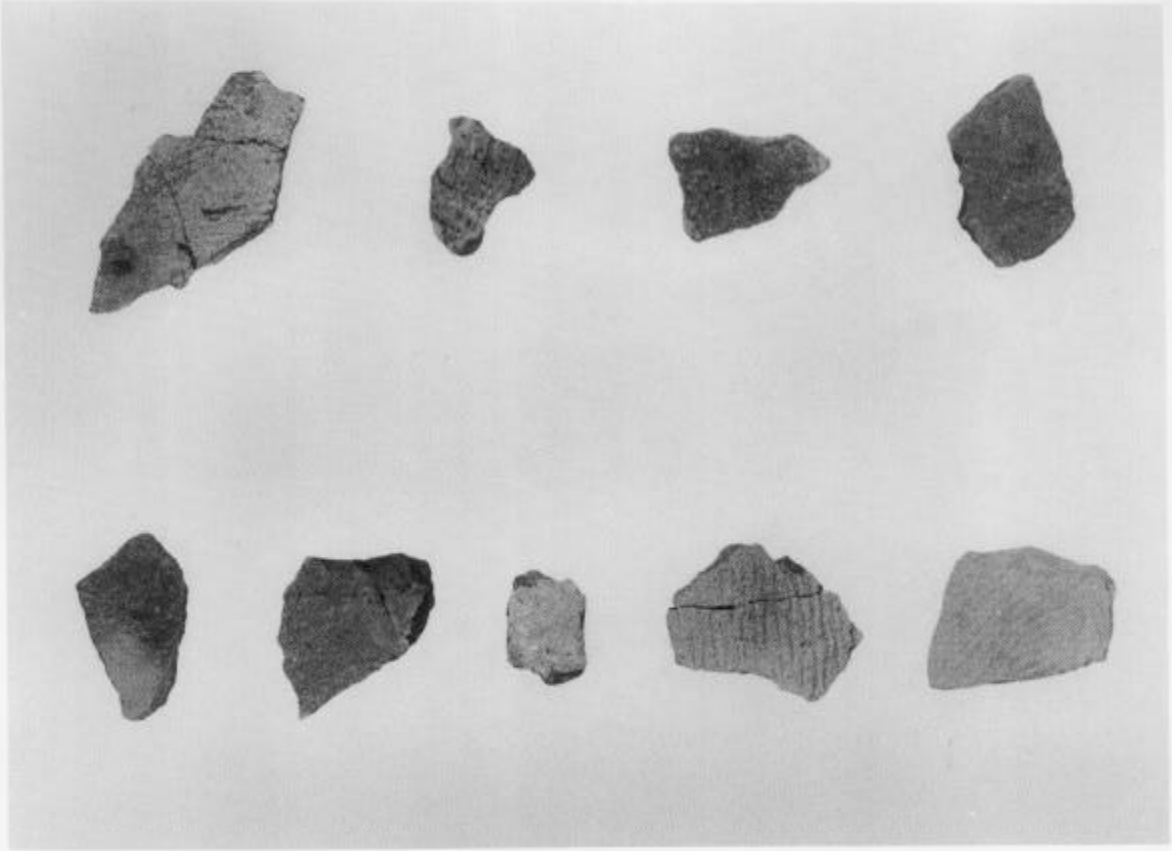


2号土壙（南→）

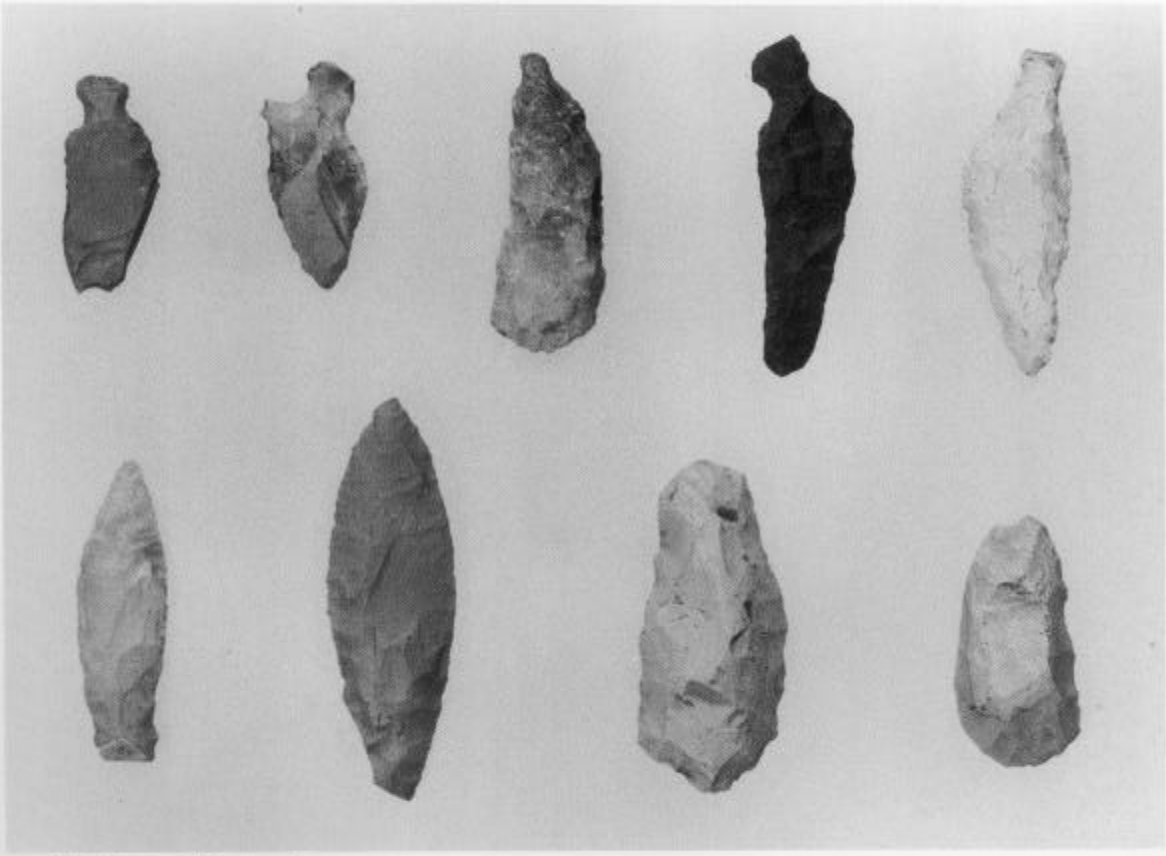
3号土壙（南→）

4号土壙（西→）

図版2

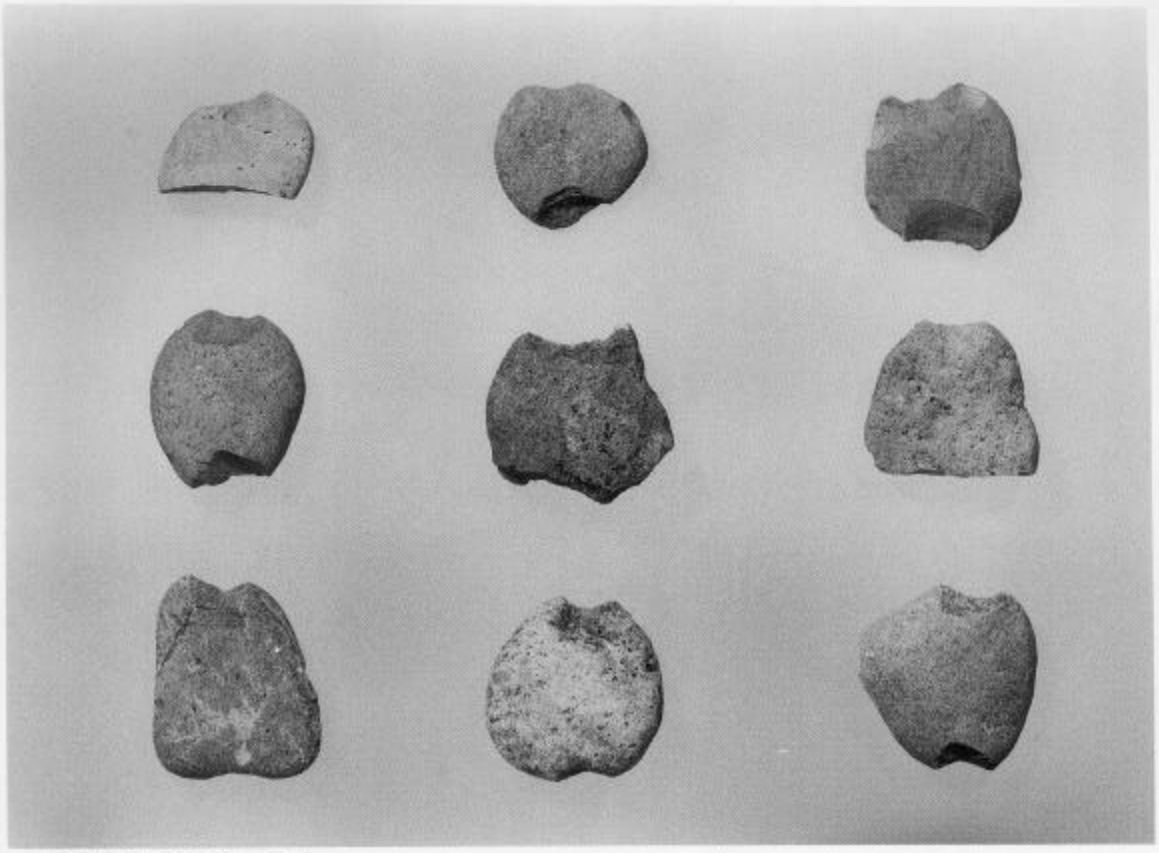


出土土器（1～9）

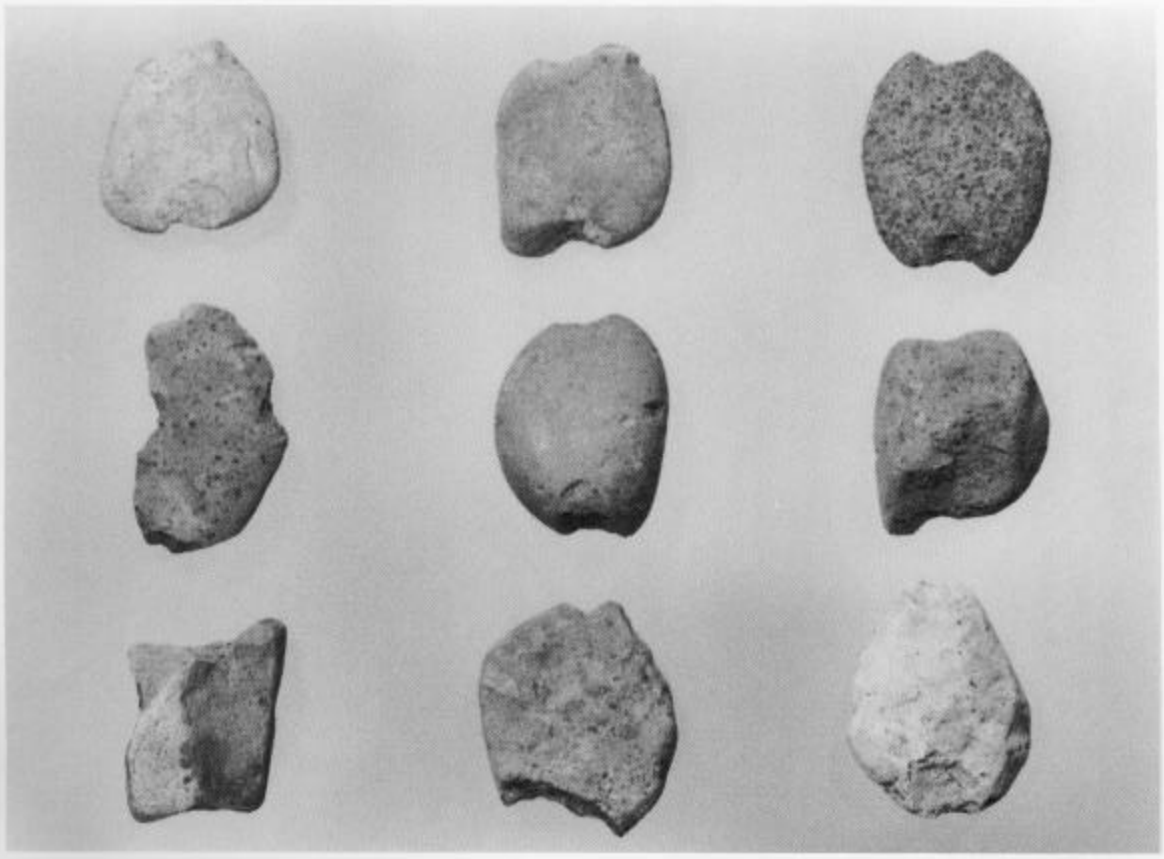


遺構外出土石器（1－9）

図版 3

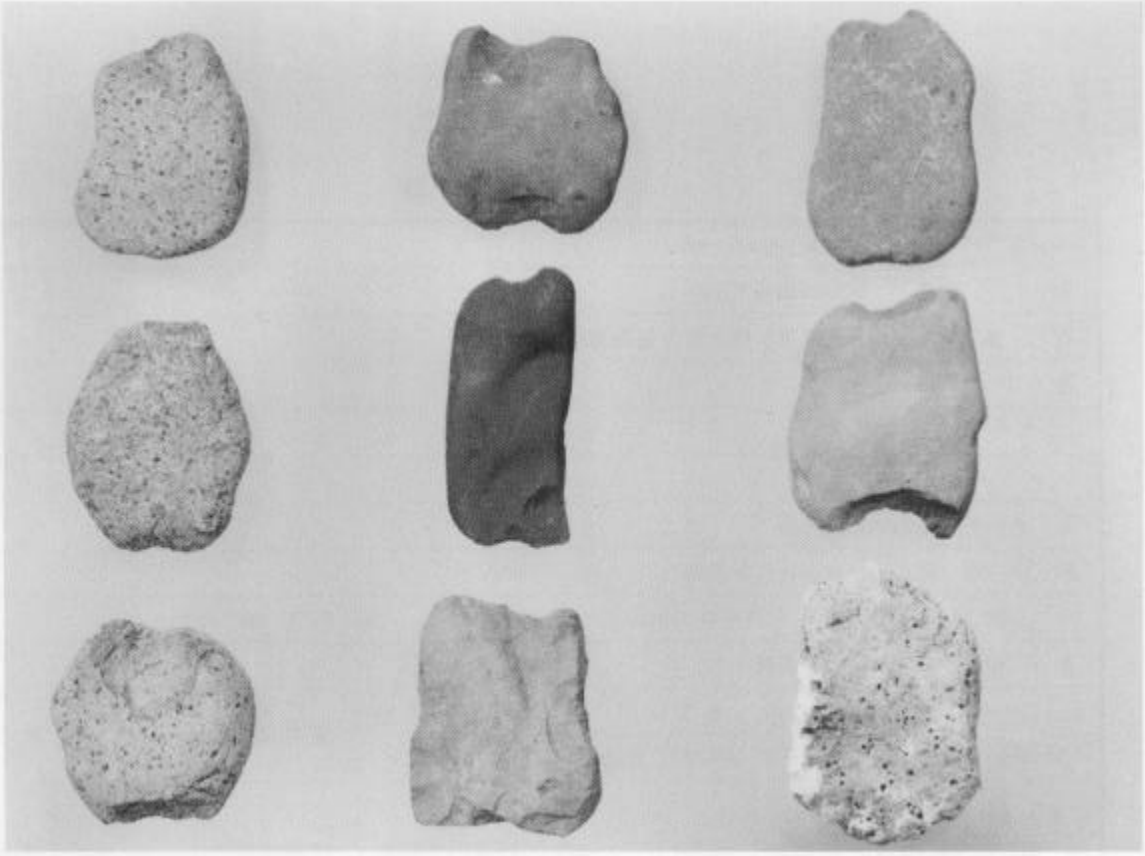


遺構外出土石器（10～18）

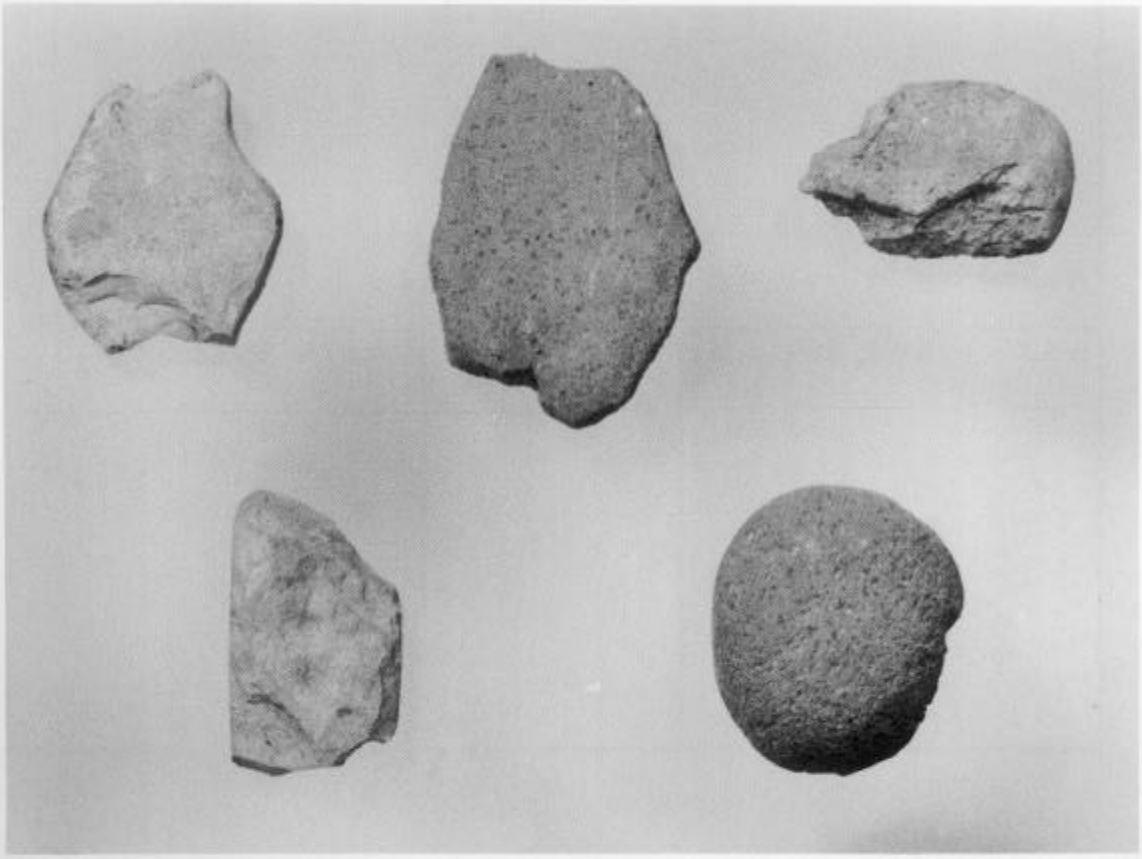


遺構外出土石器（19～27）

図版 4



遺構外出土石器（28～36）



遺構外出土石器（37～41）

図版 5

報告書抄録

ふりがな	あきた しこわしみず いせき
書名	秋田市強清水遺跡
副書名	林道建設に伴う緊急発掘調査報告書
巻次	
シリーズ名	
シリーズ番号	
編著名者	安田忠市
編集機関	秋田市教育委員会
所在地	〒010 秋田県秋田市山王二丁目1－53　Tel 0188－66－2246
発行年月日	1997年3月

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 °′″	東経 °′″	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
こわしみず 強清水	あきた しもはま はった 秋田市下浜八田 あざこわしみず 字強清水	05201	341	39度 37分 5秒	140度 8分 33秒	19960405～ 19960423	600	林道建設に伴う事前調査

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
強清水	集落跡	縄文（前期）	土壙　4基 柱穴状遺構	縄文土器、石器	

秋田市
強　清　水　遺　跡
－林道建設に伴う緊急発掘調査報告書－

発　行　秋田市教育委員会
印　刷　秋田マイクロ写真印刷(株)